

東日本大震災救援募金会計

総額 824,269,498 円

国内 569,256,023 円

海外 255,013,475 円

2013 年 6 月 30 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表（単位：円）

【2011 年 3 月 15 日～ 2013 年 6 月 30 日】

東日本大震災救援対策委員会会計、東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書（単位：円）

教区	件数合計	金額合計
北海	110	4,596,970
奥羽	116	4,302,627
東北	60	2,475,133
関東	717	46,142,025
東京	1364	167,169,644
東京教区	11	2,332,956
東京・東	229	24,144,051
東京・西南	378	70,256,427
東京・南	135	23,528,142
東京・北	243	20,624,366
東京・千葉	368	26,283,702
西東京	591	59,707,525
神奈川	475	45,343,393
東海	440	35,672,605
中部	514	60,182,851
京都	80	8,926,639
大阪	408	31,539,828
兵庫	92	9,787,862
東中国	90	5,151,911
西中国	161	7,160,840
四国	318	16,490,224
九州	306	16,979,512
沖縄	83	2,254,090
個人・他	961	45,372,344
総計	6,886	569,256,023

＊ 1 海外収入内訳		
2013.4.22	UMCOR 石巻活動のための献金	7,992,710
2013.5.17	Mutsumi Ueno Luzern 音楽イベントのための 指定献金	1,151,356
2013.6.18	Berliner Missionswerk 堀川愛生園 指定献金 15000 ユーロ	1,878,950
2013.6.18	Berliner Missionswerk 会堂再建指定献金 5000 ユーロ	625,650
	合計	11,648,666

UMCOR：United Methodist Comittee Relief

＊ 2 長期貸付金回収収入（会堂牧師館再建貸付返済金）		
2013.4.30	安積教会 第 1 回返済金 4/3（2012 年 12/26・200 万貸出分の返済）	500,000



会計報告にある堀川愛生園は、海外からの義援金と教団からの支援金等により、大規模な改築工事を完成され、本年 6 月 2 2 日に「完成感謝礼拝」を行われました。その 時の報告と、後日、送金して下さったドイツの教会から堀川愛生園に使節団が訪問された時の報告記事を用意しましたが、紙面の都合で次号に掲載いたします。暑さ厳しい折、皆さまお元気で過ごしてください。（SO）

【募金振込先】 振替番号 00110-6-639331 加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 10

2013 年 8 月 12 日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

キリスト教

学校における

取り組み

阪神淡路大震災は、多くのキリスト教学校にボランティア活動の重要性を深く認識させる契機となったが、東日本大震災はそれをはるかに大きく上回る形で、より徹底的に全てのキリスト教学校に、建学の精神と教育方針に深く根ざした献身と奉仕と祈りの課題を突きつけたと言えよう。紙幅が限られているので、その全貌を紹介することは到底できない。ここでは被災地にあって極めて重要な働きを担っている東北学院大学と宮城学院女子大学、また私が所属する青山学院の事例を紹介したい。

東北学院大学では、震災の混乱がなお続く 3 月 29 日にボランティア・ステーションを立ち上げ、地域情報を集約・共有し、支援を必要とする人に学生・教職員が直接支援するとともに、市町村災害ボランティア・センターや全国の大学と連携し、被災地支援のための広範な活動の中継・展開してきている。特筆すべきは、このボランティア・センターが中心となって、全国 88 大学が加わるかつてない広範な「大学間連携災害ボランティアネットワーク」が構築されたことであろう。そのための情報発信とボランティア活動のマッチングを、すべて学生が主体となって担っている。更に、東北学院大学教員を中心に「震災・原発に関わる研究または知的支援活動」をテーマとした 10 分野の学際的研究プロジェクトが発足し、昨年 7 月には学術雑誌『震災学』創刊号が発刊されたことも重要な貢献と言えよう。

宮城学院女子大学でも、リエゾン・アクション・センターが中心となって、(1) 多様なニーズに応えること、(2) 継続的・長期的な支援を行うこと、(3) 大学の知的・人的リソースを最大限に生かすことに留意しつつ、「食のほっとタイム」、「小学校子ども支援」、「復興支援コンサート」、「公文書転記」、「互理町聞き取り調査」、「サマーカレッジ」など多数のプロジェクトが展開されてきている。より専門的な支援としては、発達科学研究所を基礎に、国際基督教大学高等臨床心理研究所とのジョイント・プロジェクトとして「災害復興 心理・教育臨床センター」を立ち上げ、臨床発達心理士などの専門家が、被害者への個別相談、被害者支援に携わる者への相談に精力的に取り組んでいる。

青山学院でも、各部で活発なボランティア活動が展開されているが、その働きは、震災当日、教職員、学生たちが、帰宅困難となった行き場のない 9000 名もの人々を、渋谷のキャンパス内に受け入れ保護したことから始まった。更に、2011 年 9 月までは毎週 1 回、それ以降は毎月 11 日の昼休みに、被災地を覚えるための祈祷会が持たれ、現在でも 100 名近い学生、教職員が祈りを捧げるために集ってきている。

2011 年秋にキリスト教学校教育同盟は、日本カトリック学校連合会と共催で「キリスト教学校は東日本大震災をどう受け止めるか」との主題のもとにキリスト教学校教育懇談会を開催した。それを契機に、プロテスタント・カトリックのすべての小学校、中学校、高等学校で用いることができる共同の祈祷文が、小学生版、中高生版の 2 種類作成され、今全国のキリスト教学校の礼拝で用いられていることを覚えていただければ幸いである。



救援対策本部委員

宣教協力学校協議会

運営委員長

嶋田順好

（青山学院大学宗教主任）

被災地のいま



あの日から「2年5ヶ月」経ちました。

大地震・津波・原発事故を、皆さんははっきり覚えていると思います。では、「被災地のいま」についてはどうでしょうか？

初めてワークに

来て下さった方に、特に大切な点としてお伝えしている事があります。それは、もう「泥かき」や「支援物資」といった「緊急支援」は終わり、生活支援・仮設支援を中心とする「中長期支援」に入っているということです。

津波で農機具も漁具もすべて流されてしまった所から再スタートされています。中には一旦は諦めた方たちもいます。けれども、日本全国そして海外からもワークに来て下さっている方たちの存在に勇気づけられ、再スタートする事が出来たと言って下さる方もいます。その農業・漁業再スタートのお手伝いを、それぞれのペースに合わせて、ワークを手伝わせていただいています。具体的には、ビニールハウスの再建、草取り、漁具の手入れ、牡蠣・わかめの養殖のお手伝いなどです。

ボランティアに依存してしまい、自立を妨げているのでないかという意見もあります。けれども、2年5ヶ月が過ぎた今、ワーカーの数も減り、依存出来るほど労働力をエマオは提供出来ません。むしろ、「再スタート」のために、より多くのワーカーが求められています。

この夏、2つの夏祭りをお手伝いさせていただきます。1つは、震災初期からずっとワークに通い続けている笹屋敷、もう1つは毎日ラジオ体操と「お茶っこ」をご一緒させていただいている七郷中央公園仮設です。両方とも、それぞれの町内会や自治会が主催で、エマオはあくまで協力という立場です。

笹屋敷では、去年震災後初めての夏祭りということもあって、設営や機材の準備、撤去まで、その多くをエマオでお手伝いさせていただきました。参加者の多くもエマオからのワーカーでした。七郷中央公園仮設

では、仮設に住まれている方たちが総勢で、大規模な夏祭りでした。

すでに笹屋敷では117世帯ある内、80軒以上のお宅が戻ってこれ、この夏も帰ってくるお宅が数軒あります。その中で、エマオに頼ってばかりいないで、今年は自分たちでも頑張ろうという機運が生まれ、機材の準備などは町内会自身で行う事になりました。

その反面、七郷中央公園仮設では、60世帯あった内、32世帯まで減りました。残っていらっしゃるの、集団移転の方や経済的理由や障がいのために出ることが出来ない方たちです。少しずつ仮設も賑わいを失いつつあります。去年の様に大規模なものではなく、小規模でも温かい夏祭りを、自治会とエマオを含む各支援団体が協力して行う事になりました。つまり、笹屋敷では人が増え、仮設では人が減っているのです。仮設支援はむしろこれから始まると感じます。

その様な中で、5月末の東北教区総会において、続く2年（2013～2014年度）も仙台・石巻共に支援センターの活動を継続し、生活支援・仮設支援を続けていくことを決議しました。さらに、仙台・石巻で繋がってきた仮設との関わりを大切に、「仮設住宅がある限り」支援を続けていくことを「基本方針」としました。

主イエスがここ被災地で寄り添い働かれていることを信じ、これからも「お祈り」と「スロワーク」を軸に歩んでいきます。ぜひ皆さまもお祈りに覚えていただければと思います。

佐藤 真史

（東北教区被災者支援センター・エマオ／教団派遣専従）



■わかめ収穫の手伝い（石巻）

「東北教区放射能問題支援対策室」のための全国募金にご協力ください

東北教区は本年総会において、東日本大震災被災に向けた働きを継続し、「放射能問題支援対策室」設置に向かうことを決議しました。健康被害・生活不安がさらに危惧される中、この地の人々に仕える働きをより日常的に展開したいと願っています。9月より活動開始の計画です。経費は、教区特別会計取崩、教団よりの援助、海外教会への申請を見当していますが、なお皆さまの支援が必要です。ご協力をお願いします。

東北教区総会議長 小西 望

この「対策室」は下記の働きを推進します。

1. 放射能で苦しむ方たちへの訪問と傾聴
2. こども保養プロジェクトの推進
3. 医師による健康相談と検診
4. 上記3本柱の他に、緊急時対策、情報の発信、講演会など

支援のいま

西東京教区の震災募金活動

西東京教区（以下教区と略す）常置委員会は震災の知らせを受けてボランティア派遣を始めました。併せて、教団の10億円募金活動に積極的に参加することを決めました。10億円に対して教区は1億円を目標とし、2011年10月、常置委員会の下に東日本大震災募金推進委員会が設置されました。1億円を2011年11月～2015年3月末までに奉げる、これが大目標です。募金活動を始めた2011年10月迄に、2000万円がボランティア派遣費用として集まり、これを基礎として2011年度は残800万円を目標とし、計2800万円を年度目標としました。2012年度～2015年3月までの3年間の目標は、各年度毎に2,400万円です。これで合計1億円になります。

年間の目標金額2,400万円は教区の負担金の約59%に相当します。そこで各教会・伝道所には教区負担金額の約60%を震災募金の目標額の目安として考えて頂きました。或いは、教区の教会員の1人が1ヶ月当たり500円の募金すると、教区全体の礼拝出席者数が約4,400名なので、年間2,640万円となります。ここから1人1ヶ月500円を目安としました。そして個人募金用に教区は震災募金専用の募金袋を用意し、希望する教会へ送りしました。このように募金目標金額を教会単位または信徒単位にして、身近な例を引いた募金趣意書を各教会へ一斉に発送し、協力をお願いしたのが2011年11月末です。

震災募金を奉げることは主イエスの幹に繋がる枝であること、即ち教区の一体感がなければ大きな目標

金額を達成することはできません。この理念を大事に生かし、教区の震災募金推進委員会を立ち上げました。各教会で震災募金推進委員を選び、この方々が募金活動の中心となりました。募金推進委員全体会議は2012年2月より半年に1回の割合で継続して開催しています。この会議では各教会の募金活動の実情や募金推進の工夫や企画、教区への率直な要望が語られます。各教会の推進委員の方には必ず発言をしてもらい、逆に教区としてのお願いがある場合はここで推進委員に伝えます。

募金は捧げるだけではなく教区としての連帯の気持ちを作ることも大事です。教区全体の思いとして、震災募金のためのチャリティコンサートを毎年3月に開き、2014年度まで継続します。毎回300名～400名が集まる盛大な集まりで、会場のロビーには被災地の写真や教区から派遣したボランティアの奉仕活動を紹介し、教区の働きをまとめて報告するよい機会としています。気持ちを一にするしるしとして、Tシャツやトートバッグを作製し、売上の約50%を募金として奉げます。各教会はバザーや修養会などの集まりで、また教区総会、婦人全体集会、伝道協議会をはじめとする集いで販売し、募金への連帯感の証としています。

2013年7月17日現在の教区の募金金額は累計で71,428,279円です。11年度～13年度の目標に対して94%、1億円に対して71.4%までできました。

最後にTシャツとトートバッグによる募金への協力を広くお願いします。西東京教区事務所までお申し込みください。お待ちしております。

中嶋 曉彦（教区常置委員、八王子教会員）

西東京教区被災地支援グッズ

■トートバッグ

デザインは「パンと魚」及び「イザヤ書55章」の2種類。
大型(W330×H300×D15)1,500円(震災復興へ約700円の支援含む)
中型(W260×H300×D10)1,200円(震災復興へ約500円の支援含む)

■Tシャツ

「黒に緑」と「濃紺に黄」の2種類
サイズ：XL、L、M、S 1,500円(震災復興へ約500円)
子ども用：100cm、120cm 1,000円

■申込先 日本基督教団西東京教区事務所
TEL：03-5305-3991 FAX：03-5305-48234

日本基督教団は東日本大震災関係献金について教団で一本化して諸教会・関係団体にご協力をお願いしています。従いまして、左記の東北教区の活動に対する募金も教団の指定献金としてお願いをし同教区の活動を支援することにいたしました。どうぞ東北教区の活動についてもお祈り下さり、ご協力いただきますようお願いいたします。

目標額
500万円

募金期間 2013年9月1日～2014年3月31日
募金先 番号 00110-6-639331
口座名 日本基督教団東日本大震災救援募金
※記入欄に「東北教区放射能問題支援室指定献金」と必ずご記入ください。

日本基督教団東日本大震災救援対策本部
本部長 石橋秀雄